

2022年度 SYLLABUS 【博士前期課程】

授業科目名： 地域事業構想特論	
担当教員名： 飯田 俊郎	
授業科目概要：「観光まちづくり」から「観光まちそだて」へ バブル期のリゾート開発の反省から生まれた「観光まちづくり」の概念は、①観光資源の保護・活用、②滞在者の満足の維持・向上、③住民の理解と協力を意味します。さらに今日では、住民自身がサービス提供者となり、その活動を持続的に成長させる「観光まちそだて」が求められています。 この授業では津軽海峡交流圏に焦点を当て、なかでも下北地域における着地型観光の事業構想をテーマに、持続可能な地域社会の発展について議論します。	
履修上の留意事項： 文献講読が中心となるが、一部、フィールドワークないしゲストを招いた討論を企画・実施します。	
教科書・参考書（参考文献）	
書名：観光のまなざし 著者／編者：ジョン・アーリ 出版社：法政大学出版局 出版年：1995年	書名：下北半島独立論 著者／編者：下北半島研究会 出版社：ぎょうせい 出版年：2013年
書名：「観光のまなざし」の展開 著者／編者：遠藤英樹・堀野正人 出版社：春風社 出版年：2004年	書名：東川スタイル 著者／編者：玉村雅敏・小島敏明 出版社：2016年 出版年：産学社
書名：月刊 事業構想 2016年7月号 著者／編者：事業構想大学院大学 出版社：日本ビジネス出版 出版年：2016年	書名：アンビシャス社会学 著者／編者：櫻井義秀・飯田俊郎・西浦功 出版社：北海道大学出版会 出版年：2014年
評価方法及び判定基準： 配布資料の水準30% ＋ 議論の水準30% ＋ レポートの水準40%	

授業目標及び進め方：

参考文献（教科書・参考書）から講読するテキストを選び、出席者全員が読んで来る部分を抜粋します。発表者は、討論のための要約と自分の立論を記したレジュメを作成します。

理論や事例の理解を深めるとともに、これと絡めて自らの意見と提案をまとめることが目標です。

第 1 回	テーマ：着地型観光とは何か 1 内 容：発地型と着地型の違いを理解する 教科書／参考書 『月刊 事業構想 2016年7月号』
第 2 回	テーマ：着地型観光とは何か 2 内 容：下北半島における着地型観光を俯瞰する 教科書／参考書 『月刊 事業構想 2016年7月号』
第 3 回	テーマ：観光のまなざし論の位相 1 内 容：観光が発達した時代の流れを概観する 教科書／参考書 『観光のまなざし』
第 4 回	テーマ：観光のまなざし論の位相 2 内 容：観光という行為の特性を理解する 教科書／参考書 『観光のまなざし』
第 5 回	テーマ：観光の仕掛け人の役割 1 内 容：観光地・観光客・観光の仕掛け人の関係を理解する 教科書／参考書 『「観光のまなざし」の展開』
第 6 回	テーマ：観光の仕掛け人の役割 2 内 容：観光現象の行方を左右する人材の特性を理解する 教科書／参考書 『「観光のまなざし」の展開』
第 7 回	テーマ：下北半島へのまなざし 1 内 容：下北半島開発の挫折の歴史と展望を検討する 教科書／参考書 『下北半島独立論』
第 8 回	テーマ：下北半島へのまなざし 2 内 容：下北半島における観光の必要性和可能性を検討する 教科書／参考書 『下北半島独立論』
第 9 回	テーマ：観光から移住へ 1 内 容：観光振興と移住促進の関係を理解する 教科書／参考書 『東川スタイル』
第10回	テーマ：観光から移住へ 2 内 容：移住者が観光の仕掛け人となる可能性を検討する 教科書／参考書 『東川スタイル』
第11回	テーマ：観光まちづくり 内 容：観光地化を目指す地域計画の問題点を検討する 教科書／参考書 『アンビシャス社会学』
第12回	テーマ：観光まちそだて 内 容：住民による持続的な観光まちづくりの取り組みを理解する 教科書／参考書 『アンビシャス社会学』
第13回	テーマ：フィールドワーク 1 内 容：むつ市の観光まちづくりを理解する 教科書／参考書 『下北半島独立論』

第14回	テーマ：フィールドワーク 2 内 容：佐井村・大間町・風間浦村の観光まちづくりを理解する 教科書／参考書 『下北半島独立論』
第15回	テーマ：フィールドワーク 3 内 容：東通村・六ヶ所村・横浜町の観光まちづくりを理解する 教科書／参考書 『下北半島独立論』